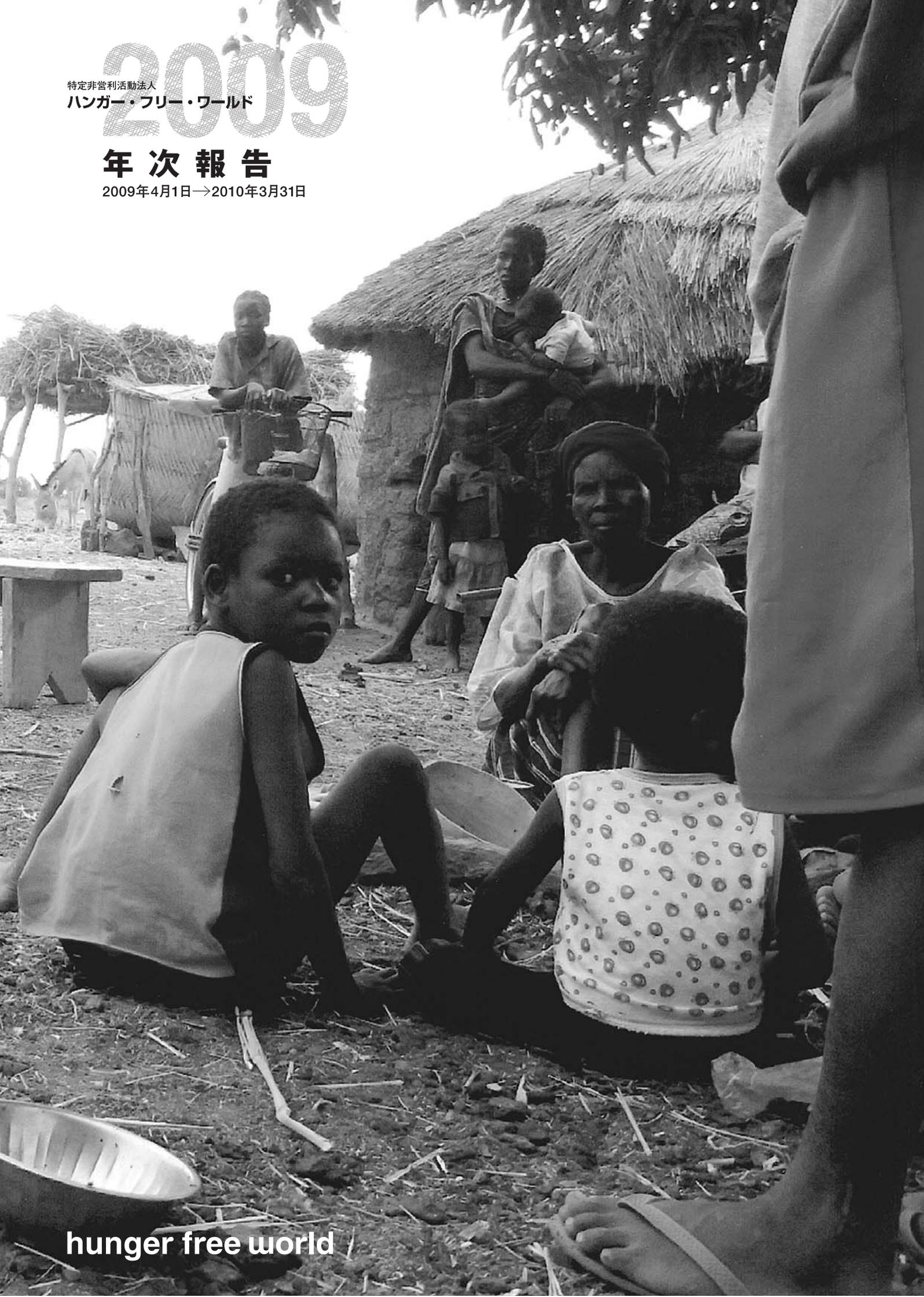


特定非営利活動法人  
ハンガー・フリー・ワールド

# 2009

## 年次報告

2009年4月1日→2010年3月31日



hunger free world

# 今こそ、飢餓をなくせるという 強い意志を

2009年度ハンガー・フリー・ワールド(HFW)は、アジア、アフリカ4カ国で11万6931人の人々の自立を支援することができました。これも、HFWと共に支援を続けてくださるみなさまのおかげと、心から感謝を申し上げます。

2008年度には、日本でG8サミットと第四回アフリカ開発会議(TICAD IV)が開催され、HFWをはじめ多くのNGOが世界のリーダーたちに飢餓や貧困をなくすための努力を促し、各国による支援の倍増などが約束されました。にもかかわらず2009年、世界では新たに6000万人を超える人々が飢餓に苦しむという危機的な状況に陥りました。金融危機や原油・食料価格高騰などが影響しているとはいえ、無念でなりません。

こうした状況を受けてHFWは2009年度、収束したかに見える食料価格高騰問題がまだ開発途上国に多大な影響を及ぼしていること、飢餓人口増加の背景には先進国に大きな責任があることを訴えてきました。

HFWは引き続き、飢餓に直面する人々の自立を促すと同時に、その成果を他地域へと広げていきます。またNGO、国連機関、政府、企業などさまざまな団体・機関と連携し、先進国に暮らす私たちの行動と声が世界を変える未来の実現に向けて、前進いたします。

みなさまのHFWへのより一層の、ご協力ご参加をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド  
理事長 齊藤恵一郎

## 2009年度活動概要

# 飢餓に直面する11万6931人を支援しました。

### 海外の活動

HFWは、飢餓に直面する人々が、「食料への権利」という人間としてもっとも基本的な権利を取り戻すため、貧困地域を対象に開発事業を実施しています。

開発事業におけるHFWの目標は、支援の終了とともに住民が自立し、飢餓のない社会を維持する力を身につけること。そのために、「栄養改善」、「教育」、「保健衛生」、「収入創出」、「ジェンダー平等の推進」、「環境」の6分野で包括的に、地域住民を主体とした事業を行っています。

2009年度は、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダの4ヵ国で42の事業を実施し、新規事業の開始、継続事業の質の向上や規模拡大に努めると同時に、住民の自立へ向けて一歩踏み出しました。ベナンでは、いずれは住民が事業を運営できるよう、これまでの活動を振り返りました(3月)。ウガンダでは、女性を対象に行ってきた有機果樹の栽培事業の対象を男性にも拡大すると同時に、住民が苗木をつくれるよう育苗場を建設し、さらなる自立を促しました(7月)。

これらの開発事業に加えてアドボカシー活動も精力的に展開。バングラデシュ支部は、有機農産物を全国に広める新たなネットワークの立ち上げに尽力しました(9月)。

また、ブルキナファソ準支部は、支部に昇格したほか(6月)、ベナン支部との交換研修を実施(2月)。HFWとして、はじめて支部の枠を越えた職員同士の研修を行いました。

### 国内の活動

HFWは、飢餓を自分自身の問題として考え行動するよう呼びかけるとともに、多くの人々が気軽に参加できるように、国内の活動を展開しています。

2009年度は、活動説明会や講演会を行ったほか、「世界食料デー月間」を実施し(10月)、多くの人々に私たちの食生活と世界の飢餓とのつながりを考える機会を提供しました。また、食料価格高騰がアフリカ諸国に及ぼす影響についての連続セミナーを他団体と共催し、内容をまとめた小冊子を発行しました。

参議院の調査会に参考人として招かれ(6月)、開発途上国への地球温暖化の影響を伝えるとともに、TICAD IVで約束されたアフリカ支援のパートナーとしてNGOを位置づけることを提起。「動く→動かす」や「CSR推進NGOネットワーク」のメンバーとして、飢餓や貧困問題解決のためのミレニアム開発目標(MDGs)の普及と達成に向けた取り組みも行いました。

定期募金制度「ひとつぶ募金」参加者の拡大、書損じハガキなどの回収事業も継続。HFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガー(YEH)ジャパンの広報活動や海外YEHのために行った資金調達活動にアドバイスするなど、青少年の主体的な活動を支援しました。

組織運営に関しては、インターン、専門家を含む多くのボランティアの参加によって、経費を抑えながら事業を拡大したほか、理事会や総会の機能の改善を図りました。



Bangladesh 邦人民共和国  
 ●面積:14万4000km<sup>2</sup>  
 ●主要産業:縫製品産業  
 ●人口:1億4450万人  
 ●言語:ベンガル語(国語)  
 ●宗教:イスラム教89.7%、  
 ヒンズー教9.2%、仏教0.7%、  
 キリスト教0.3%  
 ●5歳未満児死亡率:1000人中54人  
 ●1人あたりの国民総生産:520米ドル  
 ●平均余命:66歳  
 ●成人識字率:54%  
 (参考資料:外務省ホームページ、  
 ユニセフ「世界子供白書2010」)

# Bangladesh

住民の自立へ向けて、大きく前進。  
 住民と共に3ヵ年の中期計画の評価も終わりました。

## ボダ郡、カリガンジ郡の23ヵ村で、

19事業を実施しました。

今年度は、住民組織による収入創出事業が拡大。ボダ郡の農家が結成した有機農業組合が作物の訪問販売を開始し、カリガンジ郡の住民による協同組合では80名がヤギの飼育事業を継続しました。

持続可能な農業への取り組みでは、ボダ郡農業訓練センターの運営に加え、カリガンジ郡農業訓練センターの研修棟が完成(3月)。ボダ郡のセンター運営事業は助成を受けた外務省から事後評価を受け、最高ランクAを取得しました(12月)。教育分野では、両郡で小学校の運営を継続。2006年に開校したボダ郡の小学校では、5年生が初の卒業生として

巣立ちました。

アドボカシー活動では、独立50周年となる2021年までに飢餓をなくすことを呼びかける「ビジョン2021」キャンペーンを引き続き実施。趣旨に賛同するビジョン2021フォーラムのメンバーは750名に増えました。そのほか、新たに「農産物の安全推進機構(b\_SAFE)」の設立に尽力し(7月)、全国的な有機農業普及に向け前進しました。

運営面では2006~2008年度までの中期計画に基づいた活動の評価を住民と共に行いました。また地方事務所の職員を一堂に集めての職員研修など、職員の能力開発にも注力しました。

### 事業例



#### 持続可能な農業普及のための農業訓練センター

2007年のボダ郡に続いて、カリガンジ郡に有機農業センター研修棟が完成しました(3月)。センターには、モデル農場や研修棟のほか、遠方からも有機農業を学びに来られるよう宿泊施設も完備。また持続可能な暮らしのモデルとなるよう、バイオガスプラントや太陽光

発電装置も設置しました。育苗所では、マンゴーやパイナップルなど高価な果樹や、伝統医療に使う薬効のある樹の苗木を育てて安価に販売。住民は、これまで高くて買えなかった苗木を入手でき、貧しい家庭の栄養改善や医療費の削減にも役立ちます。



#### 女性対象の起業無償支援

HFWは2005年度から、最貧層の女性に小規模ビジネス立ち上げを支援する賞を授与しています。2008年度からグループ賞も創設。普段から仲間と助け合いながら活動する女性たちも支援できるようになりました。

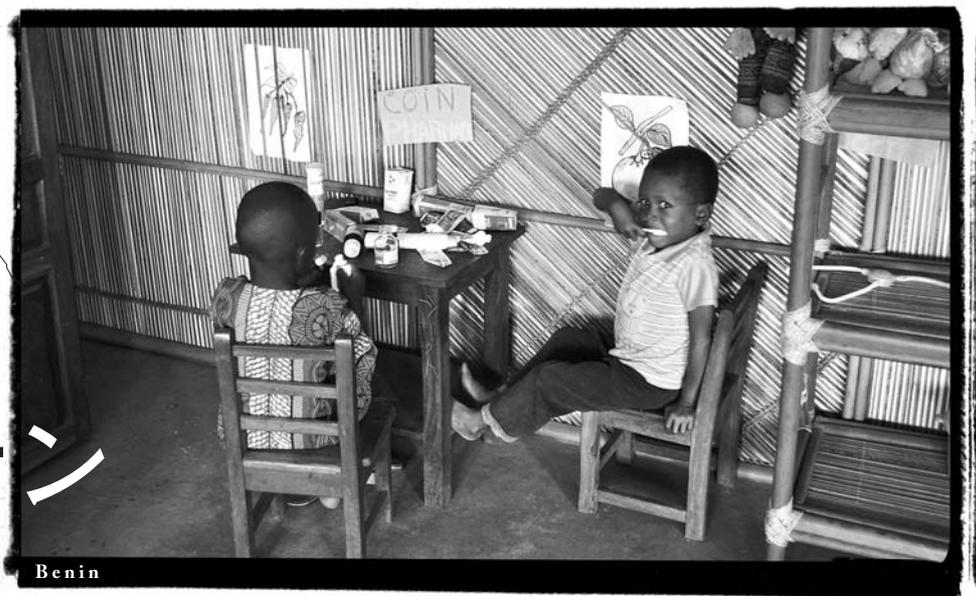
HFWの女性グループ ウィメン・エンディング・ハンガー(WEH)が集まるボダ郡、カリ

ガンジ郡の会議で、各村のWEHが小規模ビジネスを発表。投票により、各郡それぞれ受賞グループが決まるしくみです。2009年度は、牛の飼育事業、荷車事業などを行う5つのWEHが選ばれ、賞金として各2万タカ(約3万8000円)が授与されました(3月)。



ベナン共和国 ●面積:11万2622km ●主な産業:農業(綿花、パームオイル)、サービス業(港湾業) ●人口:890万人 ●言語:フランス語(公用語)  
 ●宗教:伝統的宗教65%、キリスト教20%、イスラム教15% ●5歳未満児死亡率:1000人中121人 ●1人あたりの国民総生産:690米ドル  
 ●平均余命:61歳 ●成人識字率:41% (参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2010」)

# ベナン



Benin

母子保健センターの建設に着手。  
 完成に先駆け、栄養改善や保健の知識向上のための事業も開始しました。

## 活

活動地ベト村では、教育と保健分野の基本設備を整備することが活動目標の一つ。かつては小学校しかなかったベト村に、幼児教育施設(2006年度)、中学校校舎の一部を建設してきました(2007年度)。今年度は、国際ボランティア貯金の助成を受け、中学校校舎1棟4教室を建設(10月)。これにより、4学年547名の生徒が中学校に通えるようになりました。

さらに、外務省の日本NGO連携無償資金協力を受け、母子保健センターの建設に着手(12月)。一番近い医療施設が7~8km離れているベト村では、保健施設の設置は住民の悲願でした。完成すれば(2010年7月予定)、近隣14カ村1万4000名の住民も利用できるようになります。

このセンターの建設をもって、2004年度末に住民と共に作成した中期計画で予定していた事業すべてに着手したことになります。そこで、住民代表を集めた会合を実施(3月)。HFWの活動終了と同時に自立することを見据え、識字教室や幼稚園の運営など、地域の発展の土台となっている事業を今後どのように運営していくべきか、住民間で真剣に話し合われました。

運営面では、3000万円規模の事業を職員3名で担っていることから負担が増加。新規職員の補充や、職員が活動地へ円滑に移動するための車両の購入が、今後の課題です。

### 事業例



#### 青少年・成人対象の識字教室運営

2004年度から行っている識字教育事業。2008年度に作成した指導マニュアルを導入するための教員研修を実施し、研修後には試験を行いました。年度末には合格した卒業生から新たに教員を採用。2009年度は卒業生4名が教壇に立っています。

新任教員の中には学校に通ったことがなく、HFWで文字を学ぶまでペンを持ったことがなかった人もいます。しかし、生徒として苦勞した経験が生かされ、教え方が上手いと好評。卒業生教員の存在は、生徒の意識向上にもつながっています。



#### 子どもの栄養改善

母子保健センター完成に先駆け、子どもの栄養改善事業を始めました。まず、住民に栄養研修を実施(1月)。6ヵ月未満、1歳未満などの年齢ごとに何をどう食べさせているか、住民で情報共有した上で、栄養士が子どもたちの食生活を栄養面から分析し、指導内容を作成しました。その後、子どもの身長・体重・

腕囲を測り年齢を比べて発達度を調べ、栄養不良を見分ける実習を行いました。

その後はこれらの研修を修了した住民が、栄養の知識を広める料理教室、子どもの健康診断などを行っています。

ブルキナファソ ●面積:27万4200km<sup>2</sup> ●主な産業:農業(粟、とうもろこし、タロイモ、綿及び牧畜) ●人口:1520万人  
 ●言語:フランス語(公用語)、モレ語、ディウラ語、グルマンチエ語、他 ●宗教:伝統的宗教57%、イスラム教31%、キリスト教12% ●5歳未満児死亡率:1000人中169人  
 ●1人あたりの国民総生産:480米ドル ●平均余命:53歳 ●成人識字率:29%(参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2010」)



Overseas  
 09 Activities  
 海外の活動

# ブルキナファソ

栄養改善事業の運営体制を改善し、利用者へのサービスを拡充。  
公共トイレを設置し、衛生環境の改善に努めました。

## 前

年に続き、学校給食の提供など子どもの栄養改善に力を注ぎました。2008年度末に行った、乳幼児と妊産婦対象の栄養改善事業の評価の結果を受け、保健センターのスタッフと改善活動に取り組みました。その一環として、体重測定を行っていた建物を改築。広くなったスペースで、より快適かつ効率よく子どもたちの健康管理を行えるようになりました。今年度新たに栄養不良児として登録された子どもは208名にのぼり、171名の栄養状態を改善することができました。

協同組合への支援も継続。これまで女性を対象としてきましたが、今年度から男性の協同組合が行う近隣の貯水池での漁業や、野菜栽培への支援を新たに開始しました。こ

れまで女性の活発な活動を目の当たりにしてきた男性たちは、女性たちの活動を参考に、積極的に事業に取り組みました。また、活動地域に16棟の公共トイレを建設。設置場所の選定から建設作業までのすべての工程に住民が主体的に関わりました。また、一番近い井戸でも3km以上離れていた村で井戸を一基設置するなど衛生環境の改善に努めました。

2008年度に開設された日本大使館で第1回NGO連絡会が行われ(11月)、HFWも参加。その後、今後実施されるODA事業の参考とするために、大使館員がHFWの栄養改善事業を視察しました(2月)。運営面では、事業拡大に伴う経理業務の改善や事務局体制の強化が急がれます。

### 事業例



#### 学校植林

2006年から学校給食支援を行っているピシ村小学校で植林事業を始めました。乾季には気温が40℃以上になるピシ村。校庭に木を植えることで木陰ができ、砂ぼこりが教室に入ることを防げます。  
 夏休みに子どもたちと苗木を植林し(8月)、

新学期からは子どもたちが苗木の世話を始めました(10月)。苗木につけられた札には、担当する子どもの名前が2名ずつ書かれ、子どもたちが1本の木の成長に責任を持って取り組めるよう工夫しています。木を育てる経験は環境への意識向上にもつながります。



#### 協同組合支援

女性協同組合支援を行っていたウェドピラ村で、新たに男性協同組合の支援を始めました。男性たちの多くが女性協同組合員の家族とあって、女性たちの活動を参考に、自分たちで信用金庫に口座を開設して組合費の管理を始めるほど積極的。  
 2009年度は野菜栽培を支援するため、

HFWでは都市部で入手できる質の良い種子を提供。村の近くで売られている種子は保存状態が悪く発芽率が低いため、かつては栽培をあきらめていた男性たちでしたが、今回は種まきから数ヶ月でタマネギなどが収穫できました。

ウガンダ共和国 ●面積:24万1000km<sup>2</sup> ●主要産業:農業(コーヒー、綿花など)、鉱業(銅など)、工業(繊維など) ●人口:3092万人  
 ●言語:英語、スワヒリ語、ガンダ語、他 ●宗教:キリスト教60%、伝統宗教30%、イスラム教10% ●5歳未満児死亡率:1000人中135人  
 ●1人あたりの国民総生産:420米ドル ●平均余命:53歳 ●成人識字率:74%(参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2010」)



# ウガンダ

Uganda

井戸・トイレ建設事業を継続し、衛生基盤を整備。  
 植林事業では、自分たちで苗木づくりから行えるよう支援しました。

2008年度に続き、果樹栽培指導、井戸・公衆トイレの建設と管理研修を継続したほか、新たに3つの小学校で生徒に対して栄養や衛生習慣、HIV/エイズに関する基礎的な保健衛生研修(6月、3月)を行いました。地球環境基金の資金による植林事業が2年目を迎え、住民たちが苗木づくりから行えるようにルグジ区に育苗場を建設(6月)。同区とナッケデ区、トゥンバリ・ルウェンウェデ区で住民による植林を実施し(11~3月)、収入向上と環境保全を図りました。

YEHによる若者対象の職業訓練・収入創出として2008年に開始したカブンバ区の養豚事業では、無事に子豚が生まれました。子豚は今後YEHメンバーに随時提供される予定

です。またトゥンバリ・ルウェンウェデ区でも新たに養豚事業を開始しました(5月)。

井戸建設・管理研修事業では浅井戸2基を建設し(4~5月、11~12月)。井戸管理委員として初めて子ども1名が選出されました。またナッケデ区とルグジ区で1ヵ所ずつ公衆トイレの建設を開始し、住民による維持管理委員会を設立しました(3月)。

運営面では職員の福利厚生として健康保険制度と年末賞与の支給を開始し、職員の労働環境の改善につながりました。職員・ボランティアの能力向上のための研修は予算不足のため実施されず、今後の課題となっています。

## 事業例



### 子どもの権利啓発(衛生)

ナッケデ区のピース小学校、ルグジ区の吉見百合校記念小学校、トゥンバリ・ルウェンウェデ区の小学校の生徒と教師の計930名に、保健衛生研修を実施(6月、3月)。手洗いやトイレを使うことで病気が防げること、バランスのとれた食事が健康を守ることについての

講義とディスカッションなどが行われました。生徒たちは、住民が生活用水として使っている川で用を足すことがあるなど、自分の生活習慣の問題点に気づきました。

研修後には、研修内容をまとめた冊子を生徒たちに配布しました。



### 育苗場建設・植林

ルグジ区に育苗場を建設(7月)。WEHルグジのメンバー20名と有志の住民40名に苗木栽培の研修を行いました(7月)。研修後には、WEHルグジが中心となって、育苗場で果樹や薬用樹の苗木46万5000本以上を栽培しました。

意欲が高く経済的に貧しい住民925名に、これらの苗木が配布され、住民の手で植えられました(11~3月)。今後、研修を受けた住民が、有志の技術指導員として他の住民たちに苗木づくりの技術を伝えていきます。

住民との話し合いで選出された、植林への

## 2009年度 事業一覧

プロジェクト名/2009年度対象者数/期間/2009年度支援額[単位:千円] a.会費・寄付から  
 b.補助金・助成金額、助成団体名(一:費用がかからなかった、または現地調達、または前年度以前の送金による事業、  
 YEH:青少年組織ユース・エンディング・ハンガーによる実施 WEH:女性組織ウィメン・エンディング・ハンガーによる実施)

### ◆バングラデシュ

- ・女性対象の職業訓練および権利啓発/104名/2001年4月〜/a.79
- ・安全 な水の確保と衛生環境整備/525世帯/2001年4月〜/a.297
- ・小学校運営/341名/2002年 8月〜/a.782
- ・小学校 での栄養改善及び健康管理/341名/2003年4月〜/a.854
- ・女性対象 の奨学金(ハンガー・フリー・ウィメン・スカラシップ)/75名/  
2003年4月〜/a.910
- ・協同組合支援/277名/2003年 4月〜/a.1,061
- ・ ウィメン・エンディング・ハンガー支援/1,500名/2003年12月〜/a.293
- ・ ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発/163名/  
2004年4月〜/a.445
- ・子 ども対象の奨学金(ハンガー・フリー・ワールド・スカラシップ)/615名/  
2004年4月〜/a.99
- ・女性対象 の起業無償支援/320名/2005年4月〜/a.627
- ・持続可能 な農業普及のための農業訓練センター/27,000名/2005年8月〜/a.12,002
- ・母子対象 のヘルスケアセンター/約936世帯/2006年4月〜/a.746
- ・ バングラデシュ国内NGOネットワークへの参加/(※)/2006年4月〜/a.40
- ・ ビジョン2021推進のためのネットワーク運営・アドボカシー活動/(※)/2006年4月〜/a.621
- ・情報 センター・図書館運営/4,500名/2007年4月〜/a.308
- ・活動評価/(※)/2009年4月〜/a.257
- ・ リーダーシップ育成(YEH)/488名/2000年9月〜/a.177
- ・災害復旧支援 (YEH)/1,085名/2001年1月〜/ー
- ・青少年対象 の啓発(YEH)/(※)/2005年4月〜/a. 8



※不特定多数を対象にした活動を含むため、人数特定不能



### ◆ベナン

- ・青少年・成人対象の識字教育/280名/2005年1月〜/a. 3,460
- ・幼稚園運営/150名/2006年10 月〜/a.3,680
- ・中学校建設/570名/2009年6~10月/a.1,105 b.5,943 国際ボランティア貯金寄付金
- ・権利啓発/520名/2008年 7月〜/a.1,818
- ・母子保健 センター建設/14,000名/2009年11月〜/a.1,066 b.18,269  
日本NGO連携無償資金協力
- ・子 どもの栄養改善/300名/2010年1月〜/a.1,255

### ◆ブルキナファソ

- ・乳幼児と妊産婦対象の栄養改善(CREN)/17,126名/2005年10月〜/  
a.3,753 b.900 地球市民財団
- ・協同組合支援/125名/2006年8月〜/a.2,720
- ・学校給食/320名/2006年10月〜/a.4,220
- ・学校植林/270名/2009年8月〜/a.742
- ・井戸修繕/1,006名/2009年6月/a. 425
- ・プログラム評価/-/2010年3月〜/a.1,082



### ウガンダ

- ・女性対象の有機果樹植林(WEH)/320世帯/2007年3月〜/b.257 地球環境基金
- ・トウモロコシ栽培・養鶏/40世帯/2007年3月〜/ー
- ・カブ区水と衛生/10,000名/2008年1月〜/ー
- ・小学校有機果樹植林/210名/2008年11月〜/ー
- ・育苗場建設・植林/925世帯/2009年4月~2010年3月/a.4,728 b.2,343 地球環境基金
- ・井戸建設・管理研修/4,500名/2009年4~5月、11~12月/a.1,746
- ・公共トイレ建設・衛生研修/2,600名/2010年3月〜/a.3,717
- ・子どもの権利啓発(衛生)/385名/2009年3~2010年4月/a.407
- ・小学校教材提供/210名/2009年8月/a.141
- ・青少年対象のパイナップル栽培(YEH)/50名/2006年8月〜/ー
- ・青少年対象の養豚(YEH)/40名/2008年5月〜/a.202

海外3ヵ国で、  
事業と国内会議を  
継続して実施。  
日本では全国に活動を  
拡大するためのイベントを  
開催しました。

## Activities of Youth Ending Hunger ユース・エンディング・ ハンガーの活動



YEHジャパンが、STAND UPで各地で活動する仲間の想いを世界地図で表現

## 海

海外活動国では、YEHウガンダが2008年度に開始した養豚事業の実施地を2ヵ所に拡大(5月)。パイナップル栽培事業も継続しました。YEHバングラデシュは、年間を通して貧困や平和などさまざまなテーマの啓発活動に取り組みました。ベナンでは昨年度に引き続き、HFWの活動地ベト村と都市部カラヴィで清掃活動を実施。衛生管理や学校教育の大切さを伝える啓発活動にも力を注ぎました。

国内会議をバングラデシュ、ベナン、ウガンダの3ヵ国で開催(8月)。普段は離れた地域で活動しているメンバーが一堂に集まり、1年間の活動を検証して今後の行動計画を立てました。また、リーダーシップ研修などを受けて飢餓をなくすために必要な知識も身につけました。会議にはYEHジャパンから各国へ代表1名ずつを派遣。異なる国で同じ想いを持つ若者が絆を深め、活動の成果や課題を共有する機会となりました。なお、3ヵ国での会議は6つの企業・団体ほか多くの個人の協賛によって開催が実現しました。

YEHジャパンでは、活動を拡大していくため組織機能をより強化しようと、組織改革にも着手。YEH全体の本部機能を果たしていたグローバル事務局と国内の活動をサポートする国内委員会を合併し、YEH事務局として新たなスタートを切りました。また全国6地域では、高校生から大学生を中心とした若者たちがチャリティイベントや募金活動を行ったほか、YEHの活動を全国に拡大するという目標を達成する手段の一つとして、高校生を対象としたイベントを各地で開催。昨年度に引き続き、貧困問題の解決を求めて立ち上がる世界同時アクション「STAND UP TAKE ACTION」にも参加(10月)。全国で活動するメンバーの写真を世界地図にした企画のユニークさが評価され、2年連続でフォトコンテストに入賞しました。年2回の全国会議(8月、3月)では活動を創作し、会報誌「YEHラブ」(年2回発行)やポスター、ホームページなどを活用して情報発信に努めました。

### ユース・エンディング・ハンガー(YEH)とは

世界5ヵ国で活動するHFWの青少年組織。海外では若者を主な対象とした開発事業や啓発活動を、日本国内では高校生から大学生を中心としたメンバーが6地域で、チャリティイベントや募金活動、飢餓の終わりを訴える啓発活動に取り組んでいる。



YEHウガンダの養豚事業で生まれた子豚



バングラデシュの国内会議で今後の活動を議論。YEHジャパンメンバーも参加



学園祭で飢餓の現状を発表



YEHジャパン全国会議で年間の活動計画を話し合う



YEHベナン国内会議の参加者と一緒に



学園祭でアジア料理を販売。純益を海外YEHの支援に



高校生と世界の問題を考えるイベントを実施

# Activities in Japan

## 09 国内の活動

企業のボランティアイベントで親子向けEHGを実施(10月)



期待が寄せられる、  
市民社会と他分野との連携。  
さまざまな機会に、多くの人と  
力を合わせて活動しました。

- チャリティイベント開催・協力 42回
- 活動説明会開催 24回
- 活動報告会・学習会・交流会の開催 20回
- 国際協力などのイベントへの参加 10回
- 講演会、エンディング・ハンガー・ゲームなどの講師派遣 12回
- 中学生徒などによる事務所来訪 6回



世界食料デー月間ホームページに連載したコラム



グローバルフェスタ(グローバルフェスタJAPAN 2009実行委員会主催)にブースを出展(10月)



エトセトラ チャリティコンサート(10月)



ピースポートに水先案内人として職員を派遣し、EHGなどを実施(9月)



アフリカ流・年末イモつき大会(12月)



ノボディゴント 料理ワークショップ&カレーパーティ(毎月開催)

エンディング・ハンガー・ゲーム

## イベント・講師派遣・EHG

飢餓の現状やHFWの活動を伝え、行動を呼びかけるために、活動説明会やイベントを各地で開催。ボランティアが企画するイベントは、料理教室、フリーマーケットへの出店、写真展、チャリティコンサートなど、支援国の現状とともに文化も知ることができる多彩な内容で、幅広い層に国際協力に加わってもらう機会となりました。

体験型のイベントとして「エンディング・ハンガー・ゲーム(EHG)」(HFWほか6団体・企業が主催、6月、8月、9月、10月、11月)を5回実施しました。

昨年度に引き続き、10月16日の世界食料デーを含む10月の1ヵ月間を「世界食料デー月間」とし、飢餓や食料問題に取り組む国際機関やNGOと共同で、食料問題についての情報やイベント情報を発信。国内の食料問題を扱うNGOも加

わり、実施団体は8団体に増えました。また、食料デー月間2009の特設ホームページには食に関わる人を取り上げたコラムも連載し、世界の飢餓問題と私たちの食とのつながりを考えるきっかけを提供しました。

「アフリカンフェスタ2009」(外務省主催、5月)、「グローバルフェスタJAPAN2009」(グローバルフェスタJAPAN2009実行委員会主催、10月)、「第3回食育フェア」(東京都主催、10月)をはじめ、多数の国際協力イベントや食関連イベントにも出展しました。

学校や企業・団体からの依頼を受けて、飢餓の現状やHFWの取り組みを紹介するために講師を派遣。また、学校で取り組んでいる国際協力に対するサポートの一環として、中学生の事務所訪問を受け入れました。



連続公開セミナー「飢餓を考えるヒント」



冊子「飢餓を考えるヒント」



参議院調査会  
「地球温暖化・国際問題調査会」

日本でG8サミットとTICADが同時に開催され、アドボカシー元年と呼ばれた2008年度に多くの経験を積んだHFWは、2009年度は独自の活動も展開。日本政府のTICAD IVにおけるアフリカ支援倍増の決定を受けて、HFWは参議院調査会「地球温暖化・国際問題調査会」の参考人として招かれ、活動国を例に、食料増産や経済成長への支援のみでは貧困層に支援が行き届かないこと、そのため格差のない社会づくりが必要であり、保健衛生や栄養改善などの基礎的な社会保障を整えることも重要であると伝えました。と同時に、アフリカ支援において日本・アフリカ双方のNGOをパートナーとして位置づけることの必要性を提言しました。

他団体との連携活動では、連続公開セミナー「飢餓を考えるヒント」(HFWほか3団体共催、5月、6月、7月、10月)

※1 世界100ヵ国以上で活動する貧困問題解決を目指すネットワークGlobal Call to Action against Povertyの略称

※2 189の加盟国が採択した国連ミレニアム宣言をもとにつくられた。飢餓人口の半減など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げている。

## アドボカシー活動

アドボカシー実践講座  
写真提供:動く→動かす



キックオフイベントでもSTAND UP



や、その内容をまとめた冊子(HFWほか2団体で作成)の配布などを通して、2008年の食料価格高騰問題がまだまだ開発途上国に影響をもたらしていることを伝え、飢餓問題解決に向けて先進国にも責任があることを伝えました。世界的な貧困問題解決ネットワーク「GCAP※1」の日本版「動く→動かす」にも継続して参加。その運営を担い、MDGs※2の達成を目指す世界同時アクション「STAND UP TAKE ACTION」(動く→動かす主催、10月)や、日本における政策提言の土壌を育てるための「アドボカシー実践講座」(動く→動かす主催、3月)の企画・運営を担いました。またMDGsを踏まえた企業の社会的責任(CSR)活動の普及を主な目的とした「CSR推進NGOネットワーク」のコアメンバーとして、企業とNGOの連携ガイドラインを制作しました。本部事務所スペースは各ネットワークの会合にも使われ、重要な役割を果たしています。

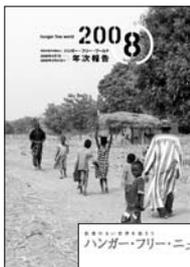
さまざまな  
書籍や発行人  
がHFWを紹介



写真で伝える  
ハンガー・フリー・ニュース



年次報告



ハンガー・フリー・ニュース



ホームページ

## 情報発信

インターネットを中心とした各種媒体によって、活動紹介、入会・寄付の呼びかけ、ボランティア募集、イベント告知を積極的に行いました(2月)。

「年次報告書」(7月)、情報誌「ハンガー・フリー・ニュース」(5月、7月、10月、1月)を84号から87号まで発行。ポストカードによる「写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース」を20号から23号(7月、9月、12月、3月)、メールマガジンを月刊で発行しました。1ヵ国を選んで支援する会員、ハンガー・フリー・パートナーへの報告も随時行いました。



ベト村幼稚園の  
子どもたちから日  
本の子どもたちへ  
絵手紙

## 支援者の拡大

### Activities in 2009 Japan 国内の活動

全国から寄せられた書損じハガキ  
を仕分けするカウントボランティア  
のみなさん



ふじ見鍼灸整骨院グループによる  
世界食料デー・チャリティマッサージ



(特活)メタボランティアと「糸びすむすび」の  
合同企画「こんにやくおむすび」。カロリーオフ  
した分だけHFWに寄付される商品

2007年度に開始した「ひとつぶ募金」のさらなる拡大に取り組み、今年度は新たに302口(1口1000円/月)の申し込みが寄せられました。気軽に参加できる「書損じハガキ回収キャンペーン」も継続。第8回(2009年1月～5月)は、個人2万822名、企業・団体103組織のみなさまからハガキや商品券などが寄せられ、過去最高の5827万4173円の支援金となりました。また、ベナン・ベト村幼稚園の支援を目的とした書損じハガキ回収の取り組み「かいしゅうかいじゅう」を継続したほか、企業から依頼を受けチャリティイベントやカウントボランティア体験会を実施・協力。社会問題と製品のブランドを関連づけて販売するCause Related Marketing (CRM) についての企業からの提案も増え、新たに4社から商品の売り上げに応じた寄付を受けました。

全体収入は1億5545万円(前年度比115.7%)となり、HFWとして活動開始以来最高の収入となりました。一方、会費収入は法人・個人とも減少し、次年度の課題として残りました。(会費収入前年度比96.5%、会員数前年度比90%)。

会員数 978名	ハンガー・フリー・パートナー ..... 89名
	グローバル・ファミリー ..... 一般/742名 学生/121名
	法人 ..... 26社
(2009年度内在籍数)	
寄付者数	個人・企業・団体 ..... 736名
	ひとつぶ募金参加者含む

## 組織運営

人 材	正会員 ..... 50名
	役員 ..... 理事7名・監事2名
	職員 ..... 専従11名・非専従2名
	インターン ..... 22名
	ボランティア
	・ハンガー・フリー・クラブ ..... 10クラブ
	ハンガー・フリー・ワールド長野 ノボディゴント ハンガー・フリー・いけばな小原 ハンガー・フリー・板橋 ハンガー・フリー・フリマ倶楽部 YEH愛知 OB・OG会 エトセトラ
	・書損じハガキカウント作業(登録数) ..... 54名
	・翻訳・通訳(登録数) ..... 36名
	・イラスト・デザイン・HP構築 ..... 27名
・パングラデシュチーム ..... 6名	
・ベナンチーム ..... 11名	
・ウガンダチーム ..... 14名	

(2009年度のべ数)

\*その他、多くの方にさまざまなご協力をいただきました。

インターンと専門的な技術を活かしたボランティアや多くの事務作業ボランティアの参加によって、経費を削減しながら事業の拡大を推進しました。各ボランティアグループも、自主的に多数のイベントを企画しました。

組織運営の強化を目的に役員改選を実施(6月)。理事長が交代したほか、会計士の監事1名、開発やマーケティング等の分野に専門知識のある理事3名を新たに迎えました。加えて総会の機能を拡充し、理事の選任、事業計画・予算案に対する正会員の議決権を新たに加えました。この機能改善に伴い、重複する機能を持つ評議員制度を廃止し、理事長諮問機関として顧問を新設しました。また、より現実的で効果的な戦略をつくるため、各理事が監督する業務を受け持つ担当理事制度づくりに着手しました(12月)。

他団体の組織運営に対する協力として、事務局長が(特活)国際協力NGOセンターの理事に就任したほか(6月)、説明責任や組織の目標設定・管理、資金調達や人材育成などNGOの組織運営に関する研修の講師として各種講座に職員を派遣するなど、日本の国際協力NGO全体の向上に、より貢献する姿勢を強めました。

ブルキナファソ準支部が支部に昇格したほか(6月)、2010年の中期目標評価年を控え、本部による各事業や業務の評価活動、中長期計画の見直しに着手(12月)。また、2010年度開催予定の各国事務局長会議の準備も進めました。

業務全般においては、拡大する業務に対応した人員体制が整わず、一部の職員に業務負荷が集中し、長時間労働が続くなどの問題の改善には至りませんでした。日曜日、祝日に事務所を閉所することで(5月)、職員の出勤日数・労働時間の削減を図りました。

特定非営利活動法人  
ハンガー・フリー・ワールド

2009年度決算報告書

収支計算書

2009年4月1日～2010年3月31日

[単位:千円]

資金収支の部	予算	実績
I 経常収入の部		
1 会費収入	29,000	28,551
2 寄付金収入	109,800	98,293
3 補助金・助成金収入	36,700	27,712
5 その他の収入	1,500	899
経常収入合計	177,000	155,455

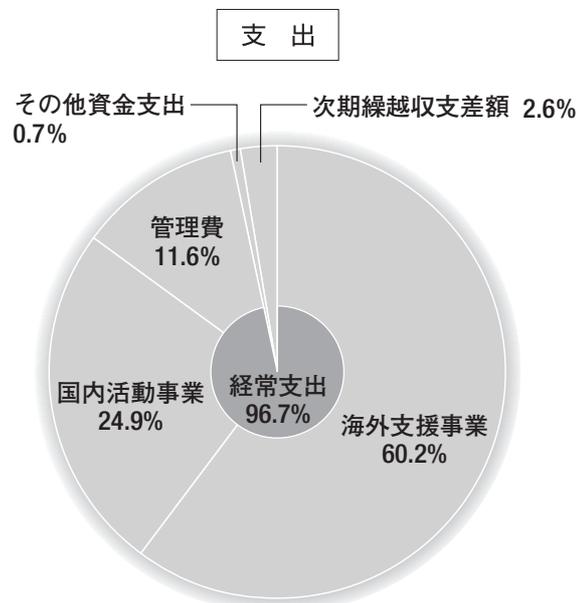
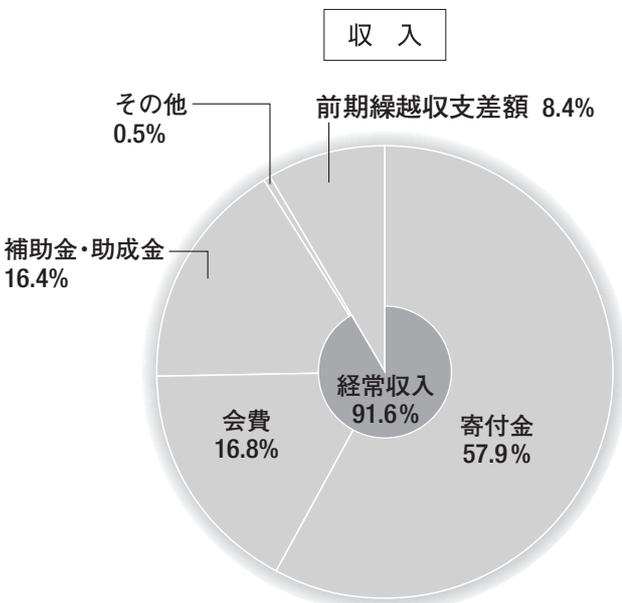
II 経常支出の部		
1 事業費		
海外支援事業費	112,700	102,213
国内活動事業費	38,000	42,304
2 管理費	25,100	19,576
経常支出合計	175,800	164,093
経常収支差額	1,200	-8,638

III その他資金収入の部		
その他資金収入	0	0
その他資金収入合計	0	0

IV その他資金支出の部		
器具備品購入支出	0	228
一括償却資産購入支出	0	473
長期前払費用支出	0	538
予備費	1,200	0
その他資金支出合計	1,200	1,239
当期収支差額	0	-9,877
前期繰越収支差額	14,250	14,250
次期繰越収支差額	14,250	4,373

正味財産増減の部	
V 正味財産増加の部	
1 資産増加額	
当期収支差額	-9,877
器具備品購入額	701
長期前払費用増加額	538
増加額合計	-8,638
正味財産増加合計	-8,638

VI 正味財産減少の部	
1 資産減少額	
減価償却額	514
長期前払費用減少額	538
減少額合計	1,052
正味財産減少合計	1,052
当期正味財産増減額	-9,690
前期繰越正味財産額	18,115
当期正味財産合計	8,425



## 貸借対照表

2010年3月31日現在

[単位:千円]

資産の部	
1 流動資産	
現金	220
普通預金	2,355
未収入金	3,245
前払金	98
貯蔵品	78
流動資産合計	5,996
2 固定資産	
建物付属設備	634
器具備品	832
差入保証金	1,998
長期前払費用	538
固定資産合計	4,052
資産合計	10,048

負債の部	
1 流動負債	
未払金	1,623
流動負債合計	1,623
2 固定負債	
	0
固定負債合計	0
負債合計	1,623

正味財産の部	
前期繰越正味財産額	18,115
当期正味財産増減額	-9,690
正味財産合計	8,425
負債及び正味財産合計	10,048

### 2009年度監査報告書

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド2009年度決算報告書は  
監査の結果、適正にして妥当であることを認めます。

2010年6月5日

監事 仁馬 鏡一

## 事業費支出の内訳

1 海外支援事業費		2 国内事業費	
ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発	バングラデシュ 445	広報	7,173
ビジョン2021推進のためのネットワーク運営・アドボカシー活動	バングラデシュ 621	啓発	3,766
バングラデシュ国内NGOネットワークへの参加	バングラデシュ 40	資金調達・募金活動	29,145
持続可能な農業普及のための農業訓練センター	バングラデシュ 12,002	ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン活動費	2,220
小学校での栄養改善及び健康管理	バングラデシュ 854	合計	42,304
小学校運営	バングラデシュ 782		
女性対象の奨学金(ハンガー・フリー・ウィメン・スカラシップ)	バングラデシュ 910		
子ども対象の奨学金(ハンガー・フリー・ワールド・スカラシップ)	バングラデシュ 99		
安全な水の確保と衛生環境整備	バングラデシュ 297		
協同組合支援	バングラデシュ 1,061		
ウィメン・エンディング・ハンガー支援	バングラデシュ 293		
女性対象の職業訓練及び権利啓発	バングラデシュ 79		
情報センター・図書館運営	バングラデシュ 308		
女性対象の起業無償支援	バングラデシュ 627		
母子対象のヘルスケアセンター	バングラデシュ 746		
活動評価	バングラデシュ 257		
青少年・成人対象の識字教育	ベナン 3,460	人件費	14,302
幼稚園運営	ベナン 3,680	居住費	2,518
中学校建設	ベナン 7,048	事務費	88
権利啓発	ベナン 1,818	通信費	349
子どもの栄養改善	ベナン 1,255	旅費交通費	429
母子保健センター建設	ベナン 19,335	報酬等	1,260
乳幼児と妊産婦対象の栄養改善	ブルキナファソ 4,653	年会費	120
学校給食	ブルキナファソ 4,220	その他	510
協同組合支援	ブルキナファソ 2,720	合計	19,576
学校植林	ブルキナファソ 742		
井戸修繕	ブルキナファソ 425		
プログラム評価	ブルキナファソ 1,082		
育苗場建設・植林	ウガンダ 7,071		
井戸建設・管理研修	ウガンダ 1,746		
公共トイレ建設・衛生研修	ウガンダ 3,717		
小学校教材提供	ウガンダ 141		
子どもの権利啓発(衛生)	ウガンダ 407		
支部運営費	17,852		
ユース・エンディング・ハンガー活動費	1,420		
合計	102,213		

## 管理費支出の内訳

※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは「公益法人会計基準」に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。  
※資金の範囲には、現金・預金・未収入金・前払金・貯蔵品・及び、未払金を含めます。  
※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは長尾久公認会計士事務所による外部監査を受けており、監査報告書を受領しております。

## 概要 (2010年7月現在)

私たちは今、飢餓のある世界にいます。飢餓が原因で亡くなる子どもは10秒に1人、空腹のまま眠りにつく人は10億2000万人……。

ハンガー・フリー・ワールド (HFV) は、飢餓のない世界を創るために活動する、特定の思想、宗教ならびに政治的意志から独立した非営利・市民組織です。どの国で暮らしていても「飢餓のある世界」に暮らす一員として、世界の人々と共に行動することを呼びかけ、「共創協働」の理念のもと活動しています。

設立は1984年4月。アメリカに本部を持つNGOの日本支部として活動を開始しました。2000年6月には、日本に本部を置く国際協力NGOとして、

- ① 途上国における開発事業の本格的な実施、
  - ② 次世代を担う青少年の主体的な貧困撲滅活動の支援継続、
  - ③ 市民活動としてより広い層の人々への参加の働きかけ、
- などを行うために独立、組織変更しました。

2000年9月には特定非営利活動法人の認証(内閣府)を受け、現在アジア・アフリカの5ヵ国で活動しています。



### ●活動国5ヵ国

#### ●本部

〒102-0072  
東京都千代田区飯田橋4-8-13山商ビル7階

#### ・国内支部事務所

横浜  
〒220-0072  
神奈川県横浜市西区浅間町3-222  
名古屋  
〒466-0059  
愛知県名古屋市昭和区福江2-13-1  
京都  
〒602-0898  
京都府京都市上京区相国寺門前町708

#### ●海外支部

バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ウガンダ

### ●役員

理事長	齊藤恵一郎	住和不動産株式会社代表取締役
副理事長	星野直	株式会社 丸進不動産代表取締役社長
理事	犬嶋由香里	株式会社 井上技研専務取締役
	関口和孝	八王子市役所職員
	原田麻里子	Think the Earthプロジェクト コーディネーター

理事	米山敏裕	特定非営利活動法人 地球の友と歩む会事務局長
	渡瀬のり子	特定非営利活動法人 市民によるガバナンス推進会議 理事
	渡邊清孝	特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド事務局長
監事	上島鋭一	株式会社 上島総合経営事務所取締役
	矢崎芽生	矢崎芽生税理士事務所／矢崎公認会計士事務所

(役職ごと50音順)



○\* hunger free world 飢餓のない世界を創ろう

2009年度版年次報告 2010年7月1日発行

発行人 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド理事長 齊藤恵一郎

編集人 甲野綾子 編集 立山誓一(ボランティアスタッフ)

制作 川村昌 印刷 株式会社アルファ印刷

発行所 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル7階

TEL 03-3261-4700 FAX 03-3261-4701 平日 10:00~21:00 土 10:00~18:00

E-MAIL hfwoffice@hungerfree.net URL <http://www.hungerfree.net/>

寄付金振込先 三菱東京UFJ銀行 神保町支店(普) 1053953

郵便振替 00130-6-192373 口座名 ハンガー・フリー・ワールド

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます